

令和3年産「ゆめかおり」現地検討会を開催

パン用小麦「ゆめかおり」の生産規模拡大と品質維持に向け、生産グループ「茨城パン小麦栽培研究会」と共催で、令和3年3月8日に現地検討会を開催しました。生産者、県関係機関に加え、取引先の製粉会社4社も参加し、生育状況と今後の栽培管理の確認を行いました。

当研究会は、きめ細かな肥培管理により、パンの膨らみを左右する「タンパク質含有率」を調整し、実需者ニーズに合った高品質な小麦づくりを実践しています。そのため、検討会では、施肥管理のポイントとなる茎立ち期の追肥量について、普及センターから助言指導しました。

製粉会社からは、「パン屋でのゆめかおりの評価は高い」「待っているパン屋さんがあるので、増産してもらいたい」等の期待の声が多く、「品質の良い小麦を届けたい」という生産者の意欲も高まりました。

産地の規模を拡大するためには、従来の畑栽培だけでなく、水田栽培を増やしていく必要がありますが、水田栽培はタンパク質含有率が上がりにくいいため、施肥管理の難しさが課題となっています。今回の検討会では、水田の試験圃場の生育も確認し、栽培の注意点等について理解を深めることができました。普及センターでは、広域連携しながら技術サポートを行い、高品質な麦づくりを推進していきます。



現地検討会の様子



水田栽培の生育状況確認の様子